

(6月15日に奈良県議会に提出した請願書を見やすい形に変形しております)

奈良県議会議長 岩田 国夫 殿

県立高等学校適正化実施計画（案）の 議決の延期と説明を求める請願書

請願者

平城高校同窓会 会長 野田 保隆

平城高校後援会 会長 大野 妙嗣

平井 信明

紹介議員

小泉 米蔵 議員

小泉 米蔵 

川田 裕 議員

川田 裕 

宮本 次郎 議員

宮本 次郎 

奈良県立平城高等学校は、1980年（昭和55年）の開校以来、今日まで38年を越える歴史を刻んできました。その間、高の原の地に建つ白亜の校舎で、多くの生徒が学業、部活動、学校行事等に励み、卒業生の数は1万4千5百名に達しています。

また、長年にわたり神功・右京・左京・朱雀・佐保台の各地域と交流しており、とりわけ地元の朱雀地区の住民との深い関係があり、地域とともに歩む学校としての歴史も重ねてまいりました。

その平城高校が、この度、奈良県教育委員会が策定された県立高等学校適正化実施計画（案）において「閉校」とされたことに私たちは驚きを禁じ得ません。さらに、思い出の詰まった校舎が、他の高等学校に明け渡されるという計画は他に例をみないことであり、在校生の気持ちを考えると憤りすら覚えるところです。

また、これから高校生になろうとする中学生、小学生にとって、進学を主とする普通科高校の選択肢が減少することは、今後の奈良県教育に少なからず影響を及ぼす可能性があります。

つきましては、この度策定された県立高等学校適正化実施計画（案）について、六月定例県議会で議決せず、関係者の理解を得られるよう丁寧な説明を求めます。